

第 11 回日本ジオパーク全国大会島根半島・宍道湖中海大会 事前アンケート集計表

第 11 回日本ジオパーク全国大会島根半島・宍道湖中海大会では、「今、なぜジオパーク？」をテーマに、各ジオパークがなぜジオパーク活動に取り組むのか再確認し、これから 10 年の具体的な取り組みについて、ジオパーク関係者全員で考えていきます。

各地域で取り組んでいるジオパーク活動の立ち位置を確認するとともに、大会参加に向けた機運の醸成を図るため、ジオパーク活動に関わっている各個人を対象に、事前アンケートを実施したところです。

事前アンケート集計結果をまとめましたので、大会での議論の際に、参考にさせていただければと思いますので、よろしくお願いします。

なお、大会終了後には、参加後アンケートを実施し、大会参加によって参加者の意識がどのように変わったのか比較を行い、大会報告書に記載する予定です。

1 アンケート集計結果の概要

(1)基本情報

(1)-1 48 地域 215 人から回答があった。

(回答地域数は、JGN 正会員及び準会員 56 地域の 85.7%)

(回答者数は、全国大会参加者 649 名 (9/21 時点) の 33.1%)

(1)-2 回答者が所属している団体は、ジオパーク運営組織が 78.6%で最も多かった。

(1)-3 回答者の役職は、推進協事務局員が 41.9%、次いでジオガイドが 35.3%であった。

(1)-4 回答者の年代は、ほぼ均等であった。

(1)-5 回答者がジオパークに関わっている経験年数は、1 年以上～5 年未満がほぼ過半数であった。

(2)規模と環境

保護、教育、持続可能な開発が一体となった総合的な観点から地球遺産を扱い、有形無形の遺産に加え、生物多様性、文化を組み合わせた活動について、64.2%ができており、28.8%ができていないとした。

(3)運営および地域とのかかわり

(3)-1 運営計画にもとづいた取り組みについて、70.3%ができており、22.8%ができていないとした。

(3)-2 地域と連携したボトムアップの手法による取り組みについて、48.4%ができており、46.5%ができていないとした。

(4) 保全・保護

(4)-1 岩石や景観そして現在進行している地質学的プロセスから読み取ることができる地球の物語への意識を高め、地形・地質と自然・文化遺産のあらゆる分野との関連付けを促進する取り組みについて、67.0%ができており、27.9%ができていないとした。

(4)-2 地球遺産の保全に対する意識を高める取り組みについて、58.2%ができており、36.3%ができていないとした。

(5)持続可能な開発

(5)-1 ジオツーリズムなどを通じ、持続可能な開発の枠組みの中で経済活動を活性化させ、地域住民の生活水準や農村環境の向上につながるような取り組みについて、35.9%ができており、57.2%ができていないとした。

(5)-2 ジオツーリズムなどを通じ、持続可能な開発の枠組みの中で経済活動を活性化させ、地球遺産保全の世論を高めることにつながるような取り組みについて、33.5%ができしており、59.5%ができていないとした。

(6)教育

(6)-1 地球科学の知識や環境、文化などの概念を社会に伝える支援、手段、活動を提供することについて、64.2%ができしており、31.6%ができていないとした。

(6)-2 ジオパークを介して学術的研究や、大学、幅広い分野の研究者との協力を促し、育むことについて、66.5%ができしており、28.4%ができていないとした。

(6)-3 ジオパーク教育を介して地域住民との協力を促し、育むことについて、59.6%ができしており、37.3%ができていないとした。

(7)防災

地形・地質の特徴から起こり得る自然災害を想定し、防災・安全対策、防災教育に取り組むことについて、53.5%ができしており、41.8%ができていないとした。

(8)ネットワーク活動

(8)-1 地域ぐるみの活動を推進するため、地域住民とのネットワーク活動に取り組むことについて、46.1%ができしており、48.9%ができていないとした。

(8)-2 活動を発展し、ジオパークの仲間による互いの経験や知識を共有するために、他のジオパークとのネットワーク活動に取り組むことについて、56.3%ができしており、39.6%ができていないとした。

2 アンケート項目と集計結果

(1)基本情報

(1)-1 地域名

48 地域、215 人回答

(回答地域数は、JGN 正会員及び準会員 56 地域の 85.7%)

(回答者数は、全国大会参加者 649 名 (9/21 時点) の 33.1%)

アポイ岳	2	佐渡	2	下北	4
洞爺湖有珠山	3	銚子	5	筑波山地域	6
糸魚川	5	伊豆半島	3	浅間山北麓	3
南アルプス	2	八峰白神	1	鳥海山・飛島	2
山陰海岸	2	四国西予	1	萩	3
室戸	8	ゆざわ	1	蔵王	1
島原半島	8	三陸	2	飛騨山脈	2
恐竜渓谷ふくい勝山	6	おおいた姫島	5	土佐清水	3
隠岐	15	おおいた豊後大野	6	十勝岳	4
阿蘇	15	三笠	5	那須烏山	1
白滝	1	桜島・錦江湾	17	三好	3
伊豆大島	3	とち鹿追	1	五島列島	6
霧島	8	南紀熊野	19	上川中部	1
磐梯山	1	立山黒部	1	その他	1
秩父	2	苗場山麓	1	島根半島・宍道湖中海	18
男鹿半島・大潟	3	M i n e 秋吉台	1		
箱根	1	三島村・鬼界カルデラ	1	合 計	215

(1)-2 所属している団体

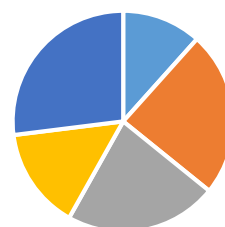
ジオパーク運営組織（推進協議会等）	169	78.6%
ガイド団体	26	12.1%
地域団体	5	2.3%
観光協会	4	1.9%
大学・研究機関	3	1.4%
ジオパーク構成市町村	3	1.4%
NPO 法人	2	0.9%
協賛企業	1	0.5%
その他	1	0.5%
なし	1	0.5%
合 計	215	100.0%

(1)-3 役職

推進協専門員	34	15.8%
推進協事務局員	90	41.9%
国際交流員	3	1.4%
ジオガイド	76	35.3%
大学・研究機関の研究員等	2	0.9%
観光協会職員	3	1.4%
行政職員	3	1.4%
推進協委員等	4	1.9%
合 計	215	100.0%

(1)-4 年代

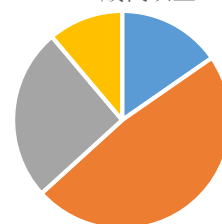
20 歳代以下	25	11.6%
30 歳代	52	24.2%
40 歳代	48	22.3%
50 歳代	32	14.9%
60 歳代以上	58	27.0%
合 計	215	100.0%



■ 20歳代以下 ■ 30歳代 ■ 40歳代
■ 50歳代 ■ 60歳代以上

(1)-5 ジオパークに関わっている経験年数

1 年未満	33	15.3%
1 年以上～5 年未満	103	47.9%
5 年以上～10 年未満	55	25.6%
10 年以上	24	11.2%
合 計	215	100.0%

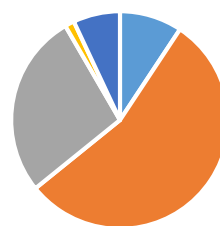


■ ①1年未満 ■ ②1年以上～5年未満
■ ③5年以上～10年未満 ■ ④10年以上

(2)規模と環境

保護、教育、持続可能な開発が一体となった総合的な観点から地球遺産を扱い、有形無形の遺産に加え、生物多様性、文化を組み合わせられた活動に取り組むことができますか。

①できている	20	9.3%
②だいたいできている	118	54.9%
③あまりできていない	59	27.4%
④できていない	3	1.4%
⑤よくわからない	15	7.0%
合計	215	100.0%

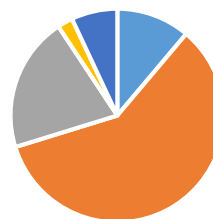


- ①できている
- ②だいたいできている
- ③あまりできていない
- ④できていない
- ⑤よくわからない

(3)運営および地域とのかかわり

(3)-1 運営計画にもとづいた取り組みができていますか。

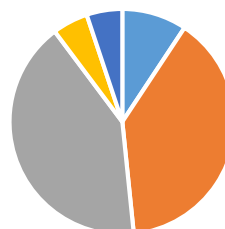
①できている	24	11.2%
②だいたいできている	127	59.1%
③あまりできていない	44	20.5%
④できていない	5	2.3%
⑤よくわからない	15	7.0%
合計	215	100.0%



- ①できている
- ②だいたいできている
- ③あまりできていない
- ④できていない
- ⑤よくわからない

(3)-2 地域と連携して、ボトムアップの手法による取り組みができていますか。

①できている	20	9.3%
②だいたいできている	84	39.1%
③あまりできていない	89	41.4%
④できていない	11	5.1%
⑤よくわからない	11	5.1%
合計	215	100.0%

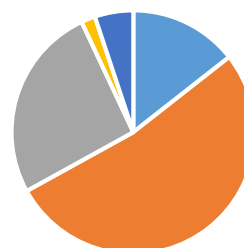


- ①できている
- ②だいたいできている
- ③あまりできていない
- ④できていない
- ⑤よくわからない

(4)保全・保護

(4)-1 岩石や景観そして現在進行している地質学的プロセスから読み取ることができる地球の物語への意識を高め、地形・地質と自然・文化遺産のあらゆる分野との関連付けを促進する取り組みができていますか。

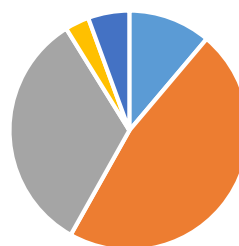
①できている	31	14.4%
②だいたいできている	113	52.6%
③あまりできていない	56	26.0%
④できていない	4	1.9%
⑤よくわからない	11	5.1%
合計	215	100.0%



- ①できている
- ②だいたいできている
- ③あまりできていない
- ④できていない
- ⑤よくわからない

(4)-2 地球遺産の保全に対する意識を高める取り組みができていますか。

①できている	24	11.2%
②だいたいできている	101	47.0%
③あまりできていない	71	33.0%
④できていない	7	3.3%
⑤よくわからない	12	5.6%
合計	215	100.0%

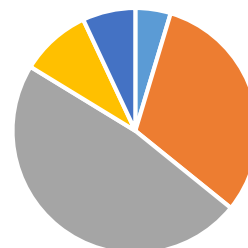


- ①できている
- ②だいたいできている
- ③あまりできていない
- ④できていない
- ⑤よくわからない

(5)持続可能な開発

(5)-1 ジオツーリズムなどを通じ、持続可能な開発の枠組みの中で経済活動を活性化させ、地域住民の生活水準や農村環境の向上につながるような取り組みができていますか。

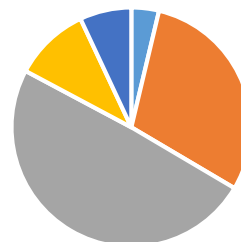
①できている	10	4.7%
②だいたいできている	67	31.2%
③あまりできていない	103	47.9%
④できていない	20	9.3%
⑤よくわからない	15	7.0%
合計	215	100.0%



- ①できている
- ②だいたいできている
- ③あまりできていない
- ④できていない
- ⑤よくわからない

(5)-2 ジオツーリズムなどを通じ、持続可能な開発の枠組みの中で経済活動を活性化させ、地球遺産保全の世論を高めることにつながるような取り組みができていますか。

①できている	8	3.7%
②だいたいできている	64	29.8%
③あまりできていない	106	49.3%
④できていない	22	10.2%
⑤よくわからない	15	7.0%
合計	215	100.0%

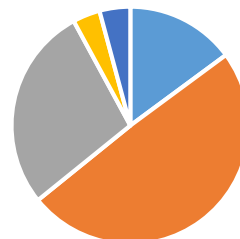


- ①できている
- ②だいたいできている
- ③あまりできていない
- ④できていない
- ⑤よくわからない

(6)教育

(6)-1 地球科学の知識や環境、文化などの概念を社会に伝える支援、手段、活動を提供することができていますか。

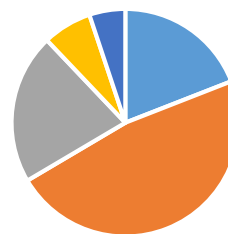
①できている	32	14.9%
②だいたいできている	106	49.3%
③あまりできていない	60	27.9%
④できていない	8	3.7%
⑤よくわからない	9	4.2%
合計	215	100.0%



- ①できている
- ②だいたいできている
- ③あまりできていない
- ④できていない
- ⑤よくわからない

(6)-2 ジオパークを介して学術的研究や、大学、幅広い分野の研究者との協力を促し、育むことができていますか。

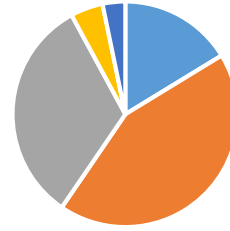
①できている	41	19.1%
②だいたいできている	102	47.4%
③あまりできていない	46	21.4%
④できていない	15	7.0%
⑤よくわからない	11	5.1%
合計	215	100.0%



- ①できている
- ②だいたいできている
- ③あまりできていない
- ④できていない
- ⑤よくわからない

(6)-3 ジオパーク教育を介して地域住民との協力を促し、育むことができますか。

①できている	35	16.3%
②だいたいできている	93	43.3%
③あまりできていない	70	32.6%
④できていない	10	4.7%
⑤よくわからない	7	3.3%
合計	215	100.0%

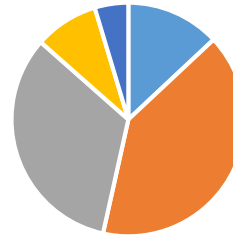


- ①できている
- ②だいたいできている
- ③あまりできていない
- ④できていない
- ⑤よくわからない

(7)防災

地形・地質の特徴から起こり得る自然災害を想定し、防災・安全対策、防災教育に取り組むことができますか。

①できている	28	13.0%
②だいたいできている	87	40.5%
③あまりできていない	71	33.0%
④できていない	19	8.8%
⑤よくわからない	10	4.7%
合計	215	100.0%

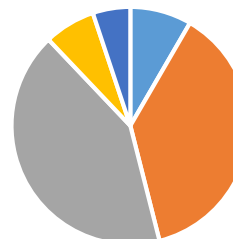


- ①できている
- ②だいたいできている
- ③あまりできていない
- ④できていない
- ⑤よくわからない

(8)ネットワーク活動

(8)-1 地域ぐるみの活動を推進するため、地域住民とのネットワーク活動に取り組むことができますか。

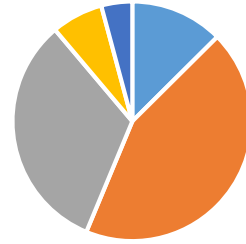
①できている	18	8.4%
②だいたいできている	81	37.7%
③あまりできていない	90	41.9%
④できていない	15	7.0%
⑤よくわからない	11	5.1%
合計	215	100.0%



- ①できている
- ②だいたいできている
- ③あまりできていない
- ④できていない
- ⑤よくわからない

(8)-2 活動を発展し、ジオパークの仲間による互いの経験や知識を共有するために、他のジオパークとのネットワーク活動に取り組むことができますか。

①できている	27	12.6%
②だいたいできている	94	43.7%
③あまりできていない	70	32.6%
④できていない	15	7.0%
⑤よくわからない	9	4.2%
合計	215	100.0%



- ①できている
- ②だいたいできている
- ③あまりできていない
- ④できていない
- ⑤よくわからない

(9)自由記入欄

①あなたのジオパーク活動における問題点

- 効率的なガイドマネジメント。
- メディアやパブリッシング素材のデザインやディレクションにおいて、頼れる専門家がない。
- 「隠岐といえば」といったテーマの共通認識がない。地質、生態系、文化の3要素があることに、無駄な誇りや特別感を持っている
- 組織、会社としてのあり方に欠陥があり、緊張感を持って仕事に取り組める環境でない
- 多面的な活動ゆえ、一つのことに力を注げないのが悩ましい問題（二足の草鞋になってしまう）
- ジオパークに関する認識の違い（観光がメインと勘違いしている人も多い）
- ジオパーク活動という認識がまだ少ないかと思えます。住民にジオパークは協働でつくりあげられるもの。という認識を普及していかないといけない。
- 昨年1年間、ジオガイド養成講座を受講しジオガイドに認定していただいたばかりですので、正直まだ問題点等を理解したり考えたりする境地に達しておりません。
- 事務局の人的予算的体制の不十分さ
- 仲間づくりが不得意
- ガイドの経済的自立
- 活動母体である銚子ジオパーク市民の会のジオガイドなどの活動メンバーが、市民の会結成時（'12年）とほとんど変わっておらず、新しい方若い方の参加が少ない。このため活動母体としての永続可能性に問題あり。
- 日本においてジオパーク事業を推進する際、地方自治体が補助金を出して推進協議会を組織し運営する、という形式が取られることが多い。その際「ジオパーク事業＝観光によるまちづくり」と理解し、そういう方向で地域住民に理解を求める傾向が強いように思われる。しかしジオパークの理念は単に「観光によるまちづくり」だけではないことは、ユネスコの発行するガイドライン等からも明らかである。

活動を続けていく中で、住民らは「思っていたような経済的な効果がジオパークでは生まれない」という感想を持つようになり、ジオパーク担当者らが目指すジオパークのあり方との乖離が大きくなるように思われる。さらに日本ジオパーク認定地域においては、ユネスコや世界ジオパークネットワークが主催する研修会や国際会議等に言語や予算等の問題から参加しない（できない）地域も多く、そうした乖離がなかなか埋まらない。その結果が天草のJGN 脱退だろうと思う。

ジオパークに着手する際に、ジオパークのイメージのみで活動計画や理念を設定しようと、上記のような状態からなかなか抜け出さず「お金（税金）だけが出ていくのみ」という見方をされる状況になってしまうように思われる。

海外の事例等を見てもジオパークとは公の事業であり、地方自治体や国が直接運営している。ジオパーク事業を実施することは、市、町、県全体でその理念を共有しておく必要がある、例えば「ジオパーク推進課」のような部署だけが理念を共有してそれに基づく事業

を実施すればいいということではない。それが自治体の長が理解していない場合も多く、ジオパーク理念に反するような事業が、同じ行政区の中で実施されたりすることは避けなければならないが、なかなか理解が浸透しない。

10年経ち、上記のような理解のズレ（ユネスコが目指すジオパークのビジョンと、地方自治体、地域住民がジオパークを通じて実現したいこと）が大きくなってしまっている。個人的にはジオパーク事業を土台に地方自治体のあらゆる業務や事業は実施されるべきであり、自治体でジオパークを推進することになった場所は、そういう覚悟を持って取り組むべきだと思う。

- ガイドを行う場所がA地点B地点C地点つながっていないのが島根半島であり一か所に行くともた途中まで戻らねばならず交通の便がわるい。県や市も根本的な対策を練っていないようだ。

②あなたの地域で考えているジオパーク活動とは何ですか？

- ボトムアップアプローチ、地質遺産の持続可能な利用、再認定審査制度を通じて、環境保全へのインセンティブを保持するための活動。また、環境保全へのインセンティブを働かせるひとつの手段として、経済メカニズムを活用すること。
- 良くも悪くも離島環境であることから独自感が強い。島民が隠岐に誇りを持つために地域の成り立ちを知ってもらおうという理念がある
- ジオパークの定義を満たす活動には遠い。
- 保全を念頭に置いた活動として位置づけられているが、実際には人と人との結束力（ボトムアップ）や地域に関する知的好奇心を高めることに重きが置かれている。
- 地球目線で、地球に寄り添い活動すること。活動をとおして、人々の生きる力・考える力を与えること。行政が行うにあたり、防災や教育により行政コストの削減を目指すこと。
- 地球の活動を自然の摂理として正しく理解し、地球上の生き物とともに安全で平和に生き続ける人を育み、人と思いをつなげ、協働で活気ある未来をつくることです。
- まだまだ小さい活動ではありますが、私の住む町を活気付けたいと、魚津ヶ崎公園と言う壮大な景色が望める観光スポットで、地域の方と一緒に小さな道の駅のような店舗の運営に携わっています。店内にはジオコーナーを設け、来店した方やSNSを見た方が少しでもジオに興味を持っていただけるよう、写真やパネル、岩石標本、子どもでも分かりやすい説明などを展示しています。また、私自身ジオガイドとして活躍できるよう日々、学んでいます。
- 地域の教育、地域の歴史的文化的文化財の保全と活用、地域経済の振興等と連携できる活動
- すみません。質問の意味がよくわかりません
自分の地域が考えている事となると、多様です
自分の地域における活動となれば、風土を意識した情報発信や清掃、災害ボランティア
- 雲仙普賢岳災害時に全国各地から頂いた支援に対する恩返し
- まず、銚子市民に銚子の魅力を再認識して頂き、銚子愛を高めたい。

③あなたは、ジオパーク活動で、地域をどのようにしていきたいですか？

- 国際社会共通の理念に立ちながら、当ジオパークの独自性を明らかにしていくこと。
- この地域しかないものや、学術的に面白いものを発掘して地域に知らせていきたい。
- 人々に生きる力・考える力を持ってもらい、持続可能な地域社会とする。
- この地域を、自分たちの大切な宝物として守りながら、教育・防災・産業振興などに持続可能な取り組みを行います。他地域等とのネットワークを活用し、魅力を伝え続け、活躍する人を育てる地域にしていきたいです。
- 地域の方々がまずは自分の住む町の成り立ちや歴史、文化、太古から繋いできた知恵のこもった暮らしなどを知り、興味を持ってもらうことから始め、この地で誇りをもって生活していただきたいことと、地形や風土などから、どのような災害が起こりうるのかなど知識を深め、一人一人がその知識を防災活動に役立てるようになってほしいと思います。
- 市内外の人々にとって独特の特徴を感じられる存在感のある地域、人の集まる地域
- 自分以外の命、物、事象に思いを馳せ、受け入れ、切磋琢磨できる地域
- 経済的活性化
- まず、銚子市民に銚子の魅力を再認識して頂き、銚子愛を高めたい。

④あなたの今までのジオパーク活動で地域はどのように変化しましたか？

- 地域社会の課題意識が共有され、自発的に課題解決に取り組む人が増え、地域コミュニティの活性化や人的交流につながっている。

- 環境ツーリズムの需要の掘り起こしが進んでいる。
- ジオパークの認知度・関心は向上し、Uターンも若年層を中心に増加
- 住民のジオパークへの参加は低い。ガイドですらジオパーク活動は推進協がやるもの、という認識が滲んでいる
- 生態学者がこれまでにいなかったこともあり、新鮮な知識を多くの市民へ発信できた。多くの市民が地域資源に興味を持ってくれた。
- 内輪の中だけではあるが、ジオパークの理念を理解してくれる人が増えることで、資源の大切さや防災教育の重要性などがわかる人が増えた
- 私は、まだジオパークとは関わりが少ないのですが、周りの方々の頑張りにより、ジオパーク活動が地域に普及しつつあると思います。いずれは、住民全体で「ジオパーク」を意識し、共通認識と主体性を持ち活動していきたいです。
- まだ活動を始めたばかりですので、正直変化は感じておりません。
- 関わってきた子どもたちが、志の有る大人に成長し、教えられることが多くなってきた少しは、活性化に貢献出来たかな…
- 海岸清掃活動によりゴミが減り、銚子に来られたお客様に自信をもってガイド案内ができるようになった。
- 小学生の授業にジオパーク教育が加わり、徐々に若い人にジオパークが浸透しつつある。

⑤あなたは、今、なぜ、ジオパーク活動に取り組んでいますか？（あなたが、ジオパーク活動に取り組むそもそもの理由）

- グローバルな価値観を共有しつつも、地域にあるユニークなものが評価され、尊重される社会であってほしいと願うから。
- 「自分たちの地域さえよければいい」という地域主義に陥らず、人類共通の理念に立ち、他者に共感し、異なる価値観への寛容さを示して平和を築いていくことが、地域が存続するための道だと思うから。
- （個人として）大学時代から志していた業界だから
- 地域の方に親切にされてやりがいのある活動だから。
- このままでは、将来の人々が安心して暮らせる持続可能な社会にはならず、気候変動や自然災害によって、多くの人に不利益がある可能性がある。今の社会をもう一度見つめなおし、循環型の社会、人々が自立して考えて行動できる社会に向けて、取り組んでいきたい。
- 地域のことを知らずに社会出ていくより、きちんと認識したうえで社会に出ていくとでは、人生への向き合い方が大きく違うことを知りました。次世代の子どもたちには、自分の故郷について学んだうえで、社会に出ていってもらいたいと考え、その取り組みが出来るのがジオパーク活動だと感じ、取り組んでいます。
- 今まで大切に守られてきた伝統や、地域資源（数少ない限りあるもの）を大切にしておくことを、継承できるようにジオパーク活動に取り組んでいます。そして、魅力を広く伝え地域の活性化に繋げていきたいからです。
- もともと自然が好きではありましたが、2年前のジオパーク認定に向けての活動から、ジオに興味を持つようになり、その後ジオガイド養成講座で五島の成り立ち、岩石の種類やでき方、地形など学ぶにつれ、遥か遠い昔から繋がる「今」がとても不思議で感慨深く、現地に足を運ぶたび感動の連続で、今の私の人生を彩るものとなっています。まだまだ未熟で、人をガイドできる力はありませんが、自分なりに楽しみながら活動していけたらと思っています。
- 定年退職後の時間的余裕の中での地域貢献、ジオパーク活動への強い興味
- 自然災害の被災体験やボランティア活動を通じて感じたことを忘れてはならないと思っています
- ガイドを通じて、社会への恩返し
- 銚子の豊かな自然に感謝し、銚子の歴史・文化を大切にして、銚子に住む人たちがお互い思いやり、心の平和を感じる郷にしたいため。
- 当地域では、持続可能な開発の一環である太陽光パネルの設置が企業により進んでいますが、その太陽光パネルが美しい景観を壊すとのことで問題となっています。元来生物は自然と共存して生きてきましたが、人類の歴史を辿ればどれも自然を、地球を支配・コントロールしようという動きが見られ、それにより多くの生物が絶滅し、山が削られ海が埋め立てられてきました。その中で人類全体の価値観を見直す一端となり、より多くの人に問いかけることができるのが、ジオパークだと思っています。
- 近年多発する自然災害も、世界的な環境問題も、地球にかかわる問題であり、持続可能な世の中をつくるためにはすべての人が地球について学ばなければならない。そのための現在知りうる最も有効な手段がジオパーク。
- 地球と自然と地域の共存を目指して、持続可能な「まち」を未来を担う世代に伝えるために、

ジオパークの保全活動や楽しく学べるジオツアーを企画実践したいから。

⑥その他

- ジオパーク格差が、はなはだしい。
- まだ、ジオパーク＝地形・地質のという考え方が、定着しているところが多い。
- 拠点施設が、岩石博物館のようなところがある。
- ジオパーク、イコール地域振興や教育を行っていくツール（手段）でしかない。
- 多市町が、地域を超えて連携している。
- やりがいがあり、面白いから。
- まだまだジオパーク又はジオパーク活動を目的とする観光客が少ない。
- ジオパーク活動とは、ジオパークを守り又は育てようとするすべての活動
- 保護保全や教育は浸透してきたので、活用による経済の活性化を促したい。
- 自然環境や地球環境を保全することで経済や文化の活性化を図る又は保全しながら活性化するという「持続可能な発展」の考え方が首長や自治体に徐々に浸透してきた。
- ジオパーク活動による経済発展や、現代文化によるジオパーク活動など、ジオパーク活動には無限の可能性があると同時に、未開の分野も多く残っているように思う。（ジオパーク活動の可能性を広げたい。具体的な取り組みはできていませんが…。
- まだまだ知識が薄くて人に伝えられない。
- 「地域を誇りに思い、この地域で生きぬく」ために、地域資源のつながりを存分に活用した、この地域ならではの持続可能な地域社会の実現。
- 地域に魅力を知り郷土愛を持って地域のために活動する人々を多くいる地域にしていきたい。
- まだ地域を変えることはできていない。
- 人口が減少していくなか、どうにかしてこの地域を残していきたい。
- 活動を始めたばかりで、学ぶことも、伝えることも、ネットワークづくりもまだまだこれからという状況。
- 観光に携わっていることから、ジオパーク活動は、当地においての観光産業を単なる物見遊山から脱却させるための足掛かりとしてとらえ、日々の業務に活かしている。
- 上記の答えと重なるが、ジオ的な視点を盛り込むことで、当地の価値をもっともっと高めていければと思っている。
- 自分が活動するので精一杯で、地域を変化させるまでには至っていない。
- 分かり難い、伝えにくいとされる当地の魅力を伝えたり、ブランディング化に、ジオ的視点は欠かせないと考えているから。
- 教育・防災・観光の観点で、地元地域の魅力と、防災の情報発信に貢献していきたい。
- 他のジオパークとの交流により、自分の地域だけでなく日本や世界とつながり、ジオの魅力伝えることを続けたい。
- 地域の様々な団体や個人とツアーを通して繋がりを持つことができつつある。防災教育を含む、地元地域の魅力を伝えることで、理解が深まりつつあると思う。
- 問題点は、エリアが広いことで、関わる人や地域により、考え方も多様となる。良い点ではあるが、物事が進みにくいこともある。ジオパークの活動の真の理解者、仲間を増やすことは、なかなか難しくもあるが、大切なことだと思う。
- 未来への懸け橋。子供達の教育に、ジオパーク活動は特に大事にしていきたい。
- 県域を越えたパークエリアで連携が困難（コロナ禍でなおさら）
- 火山活動が及ぼす自然とくらしへの多様性のPR（ガイドとして）
- ジオ資産を誇りに持てる地域にしたい
- 点的な活動では地域（住民意識）は中々変化しない。マンパワーが不足
- 火山地域の住民として、基盤であるジオとその恵みの大切さ、くらしとのつながりの面白さを子供たちや地域にしっかり伝えていきたい
- 問題点は行政が運営しているため自由が利かない点。
- ジオパーク活動を通して、島民が当たり前だと思っていた風景に価値を見出せてきた。
- 私はこの活動を通して、何も無いと言われていた島からお客様がまた来たいと満足度を感じられる島にするために日々活動を続けています。
- 10年以上頑張ってジオパーク活動に取り組んできたが、それが地域にどのようなインパクトを与えているのか、実感がない。手ごたえも感じない。
- これまでもジオパーク活動は、行政やガイド協会などの努力で一定のレベルを維持してきたと思います。ここ数年は、より学術的根拠に基づく教育を広めることに力を入れてきました。もう少し、人手が欲しいと思いますが、それは周囲に同志を広めていく取り組みが必要と考えています。

- コロナを契機に団体活動に二の足を踏む雰囲気が阻害要因です。それぞれの立場でジオパーク活動に取り組む熱意はあるものの、時節柄なのか急ブレーキを踏むような中止中止の連続でガイド活動にも疲労感が漂う印象です。このようなコロナ禍にあって、ジオパークの本旨がますますクローズアップされるべきと考えており、「今、ジオパークを動かさないでいつやる?」「ジオパークを止めるな」の思いでいっぱいです。ジオパークを通じて一番大切にしていることは「人を動かすこと」なのです。(感「動」、運「動」、活「動」、行「動」)
- コロナ禍の中、活動機会があまりない。地域の方が消極的だったり地域の価値をあまり分かっていないのでこちらが活動を行っても地域に対しては無意味に終わる事が多い、自身がガイドできる場所は交通の弁が極端にないため観光客が来ない。
- 自然が好きなので、地域を盛り上げたい気持ち、地域を知って欲しい気持ち、ジオのことを理解したい気持ちはあるものの、自分としては形式に囚われすぎる特性があり、指導員としての何かが明らかに欠けているため、指導員としての資格を生かす事ができない。あまり歩く事が得意ではないため、積極的に活動を行えない面があり、貢献できていないと不安になる
- コロナ禍の中、市民の会の活動(ガイド、勉強会、交流など)は自粛せざるを得ないのが現状です。
- ジオガイドの会に所属しているため、ガイド活動を通じて、地域の方・参加者の方に対し当ジオエリアの魅力を伝えることはもちろん、参加者にとって身近なジオに興味・疑問を持ってもらえるような案内をしていきたい。
- ジオガイドを通し、地域や次世代の子供達などに地球からのsosや持続可能に繋がる事柄を伝えていきたい。
- 桜島ジオサルクの構成員としてのジオガイド活動のほか、市ボランティアガイドとして桜島フェリー・よりみちクルーズでのガイド等で、桜島・錦江湾ジオパークを、なるべく地形・地質、自然、海、産業、歴史・文化、人の6つの面の「つながり」を意識してお伝えしたいと考えています。企画や地域活動等桜島ジオサルクが組織としての取り組むことには、高齢ながら、時間の都合等がつけばなるべく協力・参加したいと考えています。
- ジオストーリーによってジオ・エコ・ヒトのつながりを、一般の方にもわかりやすく紹介ができると感じています。
しかし、地域振興策の一環としてジオパーク活動に取り組んでいますが、ガイド養成やツーリズムの整備などに課題を抱えています。
ジオパーク活動の趣旨や意義には賛同しますが、特定の職員やスタッフに依存するところが大きく、長期的に組織運営を維持させるための工夫が必要であると感じています。
- ジオの保全を行政に働きかけているが、なかなか動いてもらえない。
大学の教授も行政に長年働きかけているが、動かない行政に困っているそうです。
市や県が、動かないのであれば、国に動いてもらいたいと思っています。
- ジオパークガイドを通じ、地域の魅力を伝えているが、理解してしてくれるのか分からない。地域の魅力を伝える。狼煙・廻船・地域の歴史・古文書から知った地元の津波の様子をガイドしている。津波被害の話や、防災について考えてもらうようにしている。地域の変化は分からない、でもお婆さんチームにジオ紙芝居を見てもらった面白かったと言ってくれた。ジオパーク活動になるのだろうか語り部を小学生等に30年以上前からしてきました。林業・森・動物の話(オオカミ・捕鯨)。
- ジオパークという言葉に囚われないジオパーク活動を地域のプレーヤーと目指しています。
- ジオパークによる経済振興を目指すための手段・手法
- ジオパークに関わってはや数年。地球科学を通して地域や世界を見る楽しさや新たな出会いなどに喜びを感じています。
しかし、ジオパークの掲げる高い理想と地域の現実とのギャップ、高い意識とモチベーションを維持して走り続けることの苦しさから、事務局スタッフとしてしんどさを感じているのが正直なところ。
- ジオパークの運営がお役所主体で官僚的になっている。ボトムアップの運動にはなっていない。
- ジオパークの基礎である、筑波山地域のジオの魅力をもっと上げる必要がある。
- ジオパークの言葉が地域住民には馴染まないまま進んでいる。元々地域の人々は火山の恵みと災害に対応する生活を送って来ていました。「ジオパーク」ありきでなく、地域に根差した、地域の資源を活かした活動を表に出して行きたいです。
- ジオパークは堅苦しいものではなく、生活に身近なものであることを多くの人に知ってもらいたい。

- ジオパークをフィルターとすればあらゆることを融合できるのではと考えている。あとはどのように実行することが有効なのか突き詰めていきたい。
- ジオパークを利用して、過疎化の深刻な地元が存続していけるような発展的な活動をしていく地域。
- ジオパーク活動によって持続可能な地域づくりをめざすが、その地域の活動にとどまらず、地球規模の課題解決のツールであることを忘れてはならないと思う。
- ジオパーク活動の分野が幅広いため、それらを横断的に取り組んでいくことが難しい。
- ジオパーク活動も、それに関わる自分自身もこれからが本番と考えています。さらに知見と繋がりを深め、地域（五島）の大地の物語と魅力を発信し、多くの方々に知っていただき、来ていただけるよう努めたいと思います。
- ジオパーク講座や学習は行っていますが、地域でジオパークを推して盛り上げていこうという状況ではないので、そこを何とか改善していきたいので、他地域の事例などが聞けたらいいと思います。
- だいぶ浸透してきているところに、コロナ禍となり、思うようにツアーが出来ない
- とくに若い世帯の人材育成（民間活力を含む）が持続的発展の鍵だと思います。
- とにかく、活動している人達が元気になっている。
また、ガイド活動をはじめから、少しずつだが依頼も増え、収入も上がっている。
全てにおいて、驚くような変化はないが、これまでの活動の結果が小さいが確実に見えてきていると感じる。
- なぜ活動に取り組むか？地域の役に立ちたいから。
- ほとんどの項目で「よくわからない」と回答しましたが、それぞれに真摯に取り組んでいると思いますが、評価すべき定量的な物差しを持ち合わせていないので、前記のような回答になってしまいました。
- ボランティアガイドとして楽しもうとする考えと、プロガイドとして収入を得る目的の考えがあり、今後の活動方針を検討中である。また、阿蘇ジオパークガイドと阿蘇火山博物館を中心とした阿蘇ガイドクラブやその他のガイドクラブが存在しており、ガイドレベルやエリア、料金体制などが、ガイド組織として一体化していない。（ジオパークガイド協会としては出来るだけの対応はしているが、ジオパーク推進事務局運営も含め、行政の課題・責任でもある）
- まず自分自身がジオパークを楽しんでいるので、その楽しさや意義を伝えたいという思いからガイド活動に参加しています。しかし、自分の仕事が以前よりかなり多忙となっしまい、最近あまり活動できなくなりました。3年後に定年退職を控え、これからの活動を考えていきたいと思っています。
- まだジオパーク運営に携わるようになり4か月ですが、担当業務は地域とジオパークを繋げることで、ジオパークと観光を繋げることでなっております。
地域が重ねてきた文化を改めて皆さまに知っていただく活動に地域の方に参加いただいたり、このような地域の方が行う活動がジオパークとしての観点を持っていることがまだまだ浸透していないため、私どもがともに参加・協力することで、ジオパークって人の文化でもあるんだということを改めて周知しております。
今後は、地域の方々が「この活動もジオパークなんだ」ということを知って、「地元」「ふるさと」のための活動になっていると認識していただけるようにバックアップしていきたいです。
また、ジオガイドの活躍できる体制がまだまだ構築できていないため、体制の構築と、「ジオガイドを依頼して観光地を周遊する」という楽しみ方を来訪者に伝えられるように取り組んでいこうと考えております。
- まだ新入りガイドです。学習する事が多すぎて、対応出来ないジレンマで一杯々です。早く現場でガンガン活躍出来るようなガイドを目指し、日々精進して行く所存です。
- もっと地域の人たちといっしょに取り組めるような仕組みを構築したい。
- 活動について一部の住民やファンには広がってきたが広く普及させるところに至っていない。
また、学術的知見をもっている人々と幅広い交流がまだまだ足りない。
また、持続可能な地域を目指す点において、ジオパークの取り組みがもっと市場にのるような仕掛けがまだまだ足りない。
ただし、それらに対する道筋は見えているので、取り組みを加速させていきたい。
- 観光として景観を楽しみつつ、教育的な部分もしっかりと楽しむことできる点が素晴らしいと思う。

- 観光協会職員として本来はジオパーク活動にも積極的に取り組んでいかなければいけないと思っ
てはいるものの、実際にはどう関わっていくかという基本的なところから実践できていない
- 観光業を活用した、地球視点の環境教育・対話の場づくりと運営、仕組みづくりに挑戦中
です。
Ento(エントウ) 隠岐ユネスコ世界ジオパーク 泊まれる拠点施設〈2021/7/1open〉の設
立・運営コーディネーターとして日々活動しています。
<https://www.facebook.com/107525644808452/posts/176996434528039/?app=fbl>
- 汽水域の生き物を中心とした環境学習を行っているが、ここに集まる人々からの知識や情報
で、多少なりとも深みが増したと思う。
- 研修会には参加しているが、実際の活動はほとんどできていない。早くコロナ禍が収まって
ほしい。私が力を入れたのは、外来生物の浸透を防ぐこと。そのための広報などをしてい
きたい。
- 行政で取り組んでいる取組にはジオパークの精神に貢献する活動もあるが、それに「ジオパ
ーク」というラベルを貼り付けにくい(ジオパークでなくてもその活動は行われるので)
- 行政と現場が離れているので、どうしても連携不足になってしまう。人口が400人以下と世
界最小規模のジオパークとして、島を持続可能なものにするため、島の魅力をジオパークを
通じて島内外に発信し、郷土愛の醸成や島に興味を持ったり定住者を増やすために取り組ん
でいます。ボトムアップの取り組みが徐々に増えており、島でのアピール、島外でのアピ
ールに繋がっている。活火山がある島なのですが、防災啓発等についてまだまだ取り組めてい
ない。そこを強化していきたい。
- 高齢化が進み若い人がなかなか来ない。ジオパーク活動は地域の宝を探し守り伝えること。
- 今回の質問内容からもジオパーク関連施設の悪い所が出ているように感じます。関わってい
る人はみんなが専門的な知識に特化しているわけでもなく、魅力を発信するための手段とし
てジオを学んでいる人もいるわけで、質問内容が偏り過ぎているように感じました。もっと
簡単にもっとたくさんの人に知ってもらえる糸口はそこからではないかと強く思います。
- 今年、ジオパークの拡大地域に認定されたので、今後ジオパークの活動が地域へ広がってい
くようにしたい。
- 昨年度にエリア拡大の認定を受け、教育、防災、観光分野とこれから活動を深めていく段階
にあります。
地域で現在活躍されている方々と連携を取りながら、桜島錦江湾の魅力をお子達に伝え、地
元に愛着を持ってもらうこと、そして域外の方々に興味を持っていただけるような魅力発信
を行うことに注力していきたいと思えます。
- 私が今、取り組んでいるのは、ジオ的要素だけに捉われず、その地域の歴史、文化を含めた
幅広い地域の”強み・特徴”などをウォーキングを通じて、幅広く多くの人々に発信すると
共に、地域の活性化に繋げて行く様にしています。尚、この様な活動を会員(ジオガイド)
を集め、6年前から実施しています。
- 私は、ジオパークの中で役立つようなバックグラウンドは何もなく、自分の地域のことを何
もわかってない住民だったのですが、ジオパークに関わることで、噴火が起きることも地震
が起きることも納得でき、まだ完璧ではないですが、正しく恐れることができるようになり
つつあるのではないかと思います。災害を避けることは難しいですが、自然現象が起こるこ
ととか地球の活動に納得できる力が一番必要なのかなと感じます。阿蘇はいろんな災害を経
験し、きっとまたいつかやってくるものなので、そのように納得できる人がもっと増える
といいなと思います。でも、それを人に伝える、共感してもらうのって本当に難しいです…。
- 私はジオパークがCMとかを打てばよいなと思っております。ACのような。
- 私はジオパーク活動を通し、そこに住む人がその他を大切に思い、誇りを持って住んで欲
しい。
次の世代の人々が、その土地の良さを認識し、ひいては、それが、その人の心の支えにもな
って欲しい。
- 自らの住む地域を知り、誇りに思うようになることを起点にしてジオパーク活動を展開して
いきたい。五島自然塾の活動がきっかけになり、官民一体となったジオパーク推進協議会が
発足したと自負しています。
- 自分の為に数年関わっています
自分でも何もするのかよくわかっていないことが日々鮮明になって来ました
ただ籍があるだけで何もしていません
何処に行ったら良いのでしょうか
What am I.

- 自分の地域を知って、他の地域も知る、の繰り返しで、地元愛が深まる。ジオストーリーや、オンラインツアーなどみんなでわいわいアイデア出し合っていて楽しい！他のジオパークの方と知り合いになれて勉強になる。
- 自分も学びながら、関わった人たちが阿蘇に関心を持って貰えると良い
- 質問項目が正直よくわからない。自分が所属するジオパーク全体の話なのか。関わっている組織なのか一個人なのか主語がないので。。。正直そこによって回答は変わります。
- 実際にジオパークの活動に関わり始めて、ジオパークの活動って幅広いなと感じました。ジオパークの理念、活動をより広く市民の方々に知ってもらって、ジオパーク活動に参加してもらい、地域づくりに繋がってほしいと思います。
- 若い人たちにも、この地域は地形地質の観点でも素晴らしい魅力があるということをもっと伝えられたらと思う。
あと、他のジオパークとの関わりをもう少し深めたいと思います。
- 取組む理由:防災士として住民への啓発活動を実施しているが、ジオ(大地の生立ち、地質、地形)を理解して活動することが訴求効果大である。また、住民の興味も増大する。
- 出雲大社から三保神社までの沿岸 42 の神社を巡り一畑寺に参拝する島根半島四十二浦巡りを文化遺産として再発見し、島根半島の旅の世界を県内外に普及することを目指して、10年現地を案内するバスツアー、浦々の住民・郷土史家と情報交換する現地講座を 34 回開催した。
この間それらの情報をまとめた浦巡りガイドブック・広報誌 30 号の刊行を進め、各神社にスタンプ印を設置して、四十二浦巡りスタンプラリーを開催して、地域住民との関係を維持することによりスタンプ箱の設置協力等成果を収めている。
研究会としてはこの信仰習俗・文化をジオパーク活動に取り込んで頂き、島根半島の地域振興・観光振興に寄与すると考えて、ジオパーク活動に参加している。コロナ禍の中ではあるが、県内外からの訪問者が四十二浦巡り、ジオパーク、魚釣り・海水浴と様々な理由でむしろ増えている感があるが、駐車場・トイレ・感染症対策など課題も鮮明になっている。これら現地住民の悩みに向き合う姿勢がジオ推進協議会に見られないことは、官民挙げて取り組むジオパーク推進が住民に到達しない原因になっているのではないかと思う。ジオパーク活動が持続的に発展するためには地域住民の理解が必要不可欠であるが、この点では、情報収集を公民館・コミセンどまりではなくて島根半島四十二浦巡りの浦々の自治会・神社総代会との関係性を深め、半島振興法による予算措置など積極的に取り組んでいくことが大きな課題です。
島根半島の人口減少は漁業離れもあり地域の大きな課題で、コロナのため集落活動の中心である祭礼も中止・規模縮小されており、今後の地域発展の見通しは明るいものではない。
島根半島沿岸では訪問者のためのトイレも不十分であり、神社の地域参拝者のためのトイレ・駐車場などをジオパーク訪問者のための利用を依頼する、島根半島南北の進入路の案内など地元と相談して看板整備を行うなどの取り組みを求めたいと思う。
- 小さい子供達から高齢者まで地元の地形、地質に興味を持ち防災意識に繋がるような活動を常に視野に入れている。
難しい話ではなく、楽しい・美味しいといろんなことに自分が興味を持っていくことで周りの人を巻き込みたい。
- 少子高齢化の進展により中山間地域を中心に人口減少が顕著になってきたことから、地域主体の活動が衰退し、地域と連携した取組が推進できなくなっている。ジオパーク活動を通して住民の郷土愛醸成や人材育成、地域資源を生かした地域振興等に注力しているところであるが、なかなか歯止めがかからない。課題の根は深く、生活や交通の利便性、雇用や福祉など多様な問題と絡み合っている。同様の問題を抱える地域も少なくないことから、ジオパークを核とした対策について、ネットワーク全体で模索していく必要があると考えている。
- 上司、担当が定期的に変わるため、ジオパークに対する意識が低下していくと感じる。
- 身近なジオサイトの成り立ちや歴史を学び、若者に語り継ぎ、地域を保全しながら、住みやすさを保っていくことがジオパーク活動であると思います。
- 身体的障害を持っているので現在は十分な活動にはなり切れていない。地域で取り組める活動として、宍道湖ジオサイト、古事記に記載されている玖夜神社内における潮汐堆積物が見られる露頭の保全と活用の活動を中心に行っていきたいと考えている。天倫寺裏と城西地区にある地滑り地形を活用した防災・減災の教育活動。斐伊川特有の河川水位の上昇とハザードマップの活用。などの活動を通して住民が地域の地形、地質の特質を知り、そこでの生活を楽しむことができる活動にしていきたい。今までやってきた活動に触れた方々は問題意識を持つようになった。ジオパーク活動は、私にとって、また人々にとっての生活台そのも

のである。ジオの上に立ち、このパークで憩い、語らい、生活し生産活動を展開していく大地の恵みそのものであるからこそこの活動から離れられない。

- 世界ジオパーク加盟への取り組みで地域が一体となってやってきましたが、加盟後の継続的に活動を行うためのモチベーションの維持に苦労しています。
- 村起こし 町おこし 住民との共習
- 他県の人だけでなく、鹿児島に住んでいる人にもっと桜島や錦江湾の魅力を知ってもらい、皆で桜島と錦江湾や鹿児島を盛り上げていけるようになったら嬉しいです。
- 地域との連携、特に産業や商業振興の面でガイドの会やジオガイドが取り組んでいないと感じています。
地質好き仲良しクラブではなく、お金を落とす仕組みや共生を具体的に考え取組むことを忘れてはいかんと、自身で行動していきたいと思えます
- 地域と連携はまだ時間がかかりそうです。
- 地域に目を向けて、地域の人たちが自分の住んでいる場所の魅力に気づき、地域を大切にしていきたいという気持ちを育んでもらいたい。そういう意識を醸成するための手法の一つがジオパーク活動であると思っている。個々の興味関心によって、どんな手法でも、尊重しあって、地域を見つめて、自分にできることを積み重ねていけるようになるといいと考えている。
- 地域のジオパークに対する理解を向上させたい
- 地域の方がジオパークについて興味・関心を持ってもらえるようにジオツアーや、ジオブランド認定商品を活用して、ジオパークの魅力を発信している。郷土愛の醸成を図るとともに、教育・保全・観光を軸とした持続可能な地域を目指している。
- 地域の魅力をもう一度見直し、どんな場所か聞かれたときに「ここは何もない地域」と答える人がいなくなることを目指して活動しています
- 地域住民のジオパークの認知度を向上したい。若い世代また新しい人材を迎えるための引継ぎ等運営の工夫をしたい。
- 地球の仕組みを知り、変化させていくものを学び100年先も私たちの意識に残る風景景観を後世に残し伝えるためジオパーク活動に取り組んでいます。が、なかなか地域に伝わっていかないのが現状の問題点です。このような考え方をもっと地域で広め、普通になるような地域にしていきたいです。
- 地球の魅力を伝え、その地球を守るため、ジオガイドをしています。地球を守る活動の1つとして海岸清掃をしています。地域の方にも参加していただき、その意味をわかってもらえるよう続けて行きたいと思えます。
- 地質地形に限らず、五島列島は知れば知るほどおもしろい。もともと学生時代に五島で地質調査をやっていたが、就職後、五島に戻ってきて、調査対象だったもの以外を学んでいる。日本列島の西の端、東シナ海に浮かぶ離島、という立ち位置が、地質だけでなく、歴史、文化、生態系に強い影響を与えている。しかし人口は減る一方である。五島列島の魅力を掘り出し、住民に伝え、魅力ある五島を将来に残す活動を続けたい。
- 登録ガイド数に比べ実働可能なガイド数が少ない。語学対応ガイドを増やす必要あり。
- 当協議会は今年度新規認定申請を行うので、今後も更なる地域の盛り上げに取り組んで行きたいと思っています。
また現在このようなご時世だからこそ、多くの人が多くの方の当たり前だった事に疑問を持ち、ツーリズムの本質に向き合える良い機会でもあったと思っています。ニュースタンダードで生まれた価値観を「ジオパーク」や「国立公園」といったキーワードと共に育て、サステイナブルツーリズムを定着させていきたいと思っています。
今はジオパークの目標のひとつであるネットワーク活動や現地を観る事が、オンラインばかりで物足りなさがありますが頑張っていきたいと思います。
- 特に学校教育現場での活動では、子ども達の地元地域への関心が高まった実感がある。
- 日本は元々自然との共存、人との共存でした。それが記紀風土記にあり日本神話にあると思います。神話の故郷出雲から古(いにしえ)の教えと関連付けながら世界に発信して行きたいです。
- 変動する大地に気づいていただくことで、地震などの災害の正しい認識を広げたい。
- 防災を中心にそれなりの努力を地域挙げてしています。ガイドとしても意味のある活動と思い、日々精進しているつもりです。いろいろな専門分野での先生方のお話も聞け、このコロナ禍の中でも学習出来る事を感謝しています。
- 問題点として室戸市の少子高齢化。また、青年層・壮年層・中年層のジオパークへの関心の低さ。
- 無償のボランティアガイドとの共存を模索中ですが、先行例があれば知りたいです。

- 問題設定について。通常時とは異なり、この1,2年はコロナ禍で国内外でのジオパークを取り巻く環境は変化している。未だに終わりがみえない状況にある。このことを踏まえれば、今回のジオパーク活動についてのアンケートの中身は必ずしも適切なものとは思えない。むしろ、コロナ禍で各ジオパークの運営がどう変わっているのかの状況把握と、ポストコロナでのジオパークの活動について皆さんがどう考えているのかについて問い、その結果を議論の素材とする必要があるのではないか。あえて申し上げますが「世の中をみずに惰性でやらないほうが良い」と思いますが如何か？